

“最先端”に触れて

東北大学 理学部生物学科 3年 吉川拓寿
(配属先：器官誘導研究チーム)

私はこの夏、辻孝先生の器官誘導研究チームの実習生として理研のインターンに参加し、そこで主にマウスの器官発生・形成・誘導について実験を行いました。日本を代表する研究所はどんなことをしているのだろうとインターンに行く前から期待に胸を膨らませていましたが、今回やった実験は私の期待以上のとても高いレベルのものでした。injection という遺伝子導入を injection 用の機械を操作して実際に行ってみたり、共焦点レーザー顕微鏡という高性能の顕微鏡を用いて器官の発生過程を見るライブイメージングを行うなど、普段の学生実験ではまず使うことのできない最新鋭の機械を用いて実験をすることができ、とても楽しかったです。また、最新鋭の機械だけでなく、それに伴う研究者の方々の技術力の高さも触れることができ、機械が最新でも使う人の技術がなければせっかくの機械の力を発揮することができないのだなと思いました。切除実験1つにとっても、私がいまいちうまくいかずサンプルがボロボロになっていく中、TAの方がパパッと的確に切除していてすごいと思いました。さらに、実験以外にも研究するということ・研究者になるということ・研究の苦楽など、様々なとても参考になる話を聞くことができとてもためになりました。他にも、全国から集まった同世代の人との交流もできいろんな考え方に触れることができました。私は今回インターンに来て研究・研究者に対する現実に触れることができ、とっても満足できた1週間でした。最後になりましたが、インターン中にお世話になった先生・TAの方々どうもありがとうございました。この1週間で経験したことを活かして今後もさらに精進していきたいと思います。



研究発表会での吉川拓寿さん（左）